

IR REPORT

第59期 第2四半期報告書
2021年4月1日～2021年9月30日



ウェーブロックホールディングス株式会社
Wavelock Holdings Co., Ltd.

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援、ご厚情を賜り、心よりお礼申し上げます。

この2年弱、世の中を混乱させてきた新型コロナウイルス感染症も、ワクチンの浸透や一人ひとりの感染防止対策の徹底、経口薬の開発の進捗等、新たな局面に差し掛かってきていると実感しております。ただ、これまで多くの方が不幸にもお亡くなりになり、また感染での辛い思いや後遺症に悩まれる方も少なくなく、さらには感染症自体にはかからなかったものの、事業運営上極めて厳しい環境下で苦しんでいる方々もたくさんいらっしゃると思っております。そのような皆様には心からお見舞い申し上げたいと思っております。

当社グループにおきましても不透明な事業環境のもと、売上の拡大、生産性の向上等、我々の努力で推し進めていけることに関して愚直に取り組んでまいりました。

その結果、2022年3月期第2四半期(累計)の売上高は前年同期比27.6%減の10,847百万円、営業利益は同44.0%減の537百万円、経常利益は同24.2%減の701百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同14.2%減の534百万円となりました。

結果を見ますと、売上高および各利益項目とも対前年同期で大幅に減少しておりますが、これは前期末にインテリア事業を営む子会社を譲渡したことが主要因となっております。本年7月30日に上方修正して発表しました業績予想、売上高10,600百万円、営業利益490百万円に対しては、それぞれ2.3%増、9.7%増と予想を上回ることができました。

マテリアルソリューション事業におきましては、需要期である上期において売上・利益を牽引する傾向があるリビングソリューションが、前期に巣ごもり需要もあって非常に活況であった張替用防虫網の反動により、今期は売上・利益を伸ばすことが難しい状況となりました。その他のソリューションは健闘したものの、原油価格

高騰による原材料価格上昇の影響もあり、リビングソリューションの苦戦をカバーすることができませんでした。その結果、セグメントとしての売上高は前年同期比0.6%減の8,517百万円、営業利益は同20.3%減の667百万円となりました。



代表取締役 兼 執行役員社長 石原 智憲

アドバンステクノロジー事業におきましては、非常に苦しんだ過去2年間から決別し、ようやく成長のドライブに再び乗り始めた実感を持てるような上期の業績となりました。金属調加飾フィルムにおきましては、日本国内および北米の自動車メーカー向けが非常に堅調に推移し、またインド・東南アジアにおける二輪車向け販売も好調でした。前期にスマートフォン筐体向けから完全撤退し経営資源を自動車用内装ディスプレイに集約したPMMA/PC2層シートにおいても、生産効率の向上等を背景に堅調に利益を積んでいる状況となっております。その結果、セグメントとしての売上高は前年同期比6.2%増の2,346百万円、営業利益は同825.2%増の206百万円となりました。

本年度下期については、さらなる原材料価格の上昇、半導体や各種部品の供給不足による自動車減産等、当社グループの事業にとって強い向かい風となることが想定されます。そのような環境下ではありますが、通期業績見込み数値をしっかりと達成することで、株主の皆様のご期待にお応えしていきたいと考えております。

株主の皆様におかれましては引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月



▶ 地中熱ビジネスの詳細は
イノベックスのWebサイトまで
<https://www.innovex-w.co.jp/business/environment/>

地中熱ビジネスの強みと今後の展開

ウェブブロックグループは、マテリアルソリューション事業を運営する子会社イノベックスを通じて地中熱ビジネスに参入しました。今回は、その背景および今後の展開についてご紹介します。

地中熱ビジネス参入の背景

ウェブブロックグループは、現在、進行中の中期経営計画において、新規領域へチャレンジすることを計画の柱としています。樹脂加工業界が成熟化するなか、樹脂加工には必ずしも拘らない新規分野の探索を行うことで、顧客の課題を解決し、ひいては当社グループの持続的な成長を目指しています。再生可能エネルギーである地中熱ビジネスへの取り組み強化はその一環です。

● 導入事例

観光イチゴ農園 (埼玉県熊谷市)

地下水熱利用培地加温(冷却)システム

ハウス(700m)のクラウン冷却、培地加温用として導入することで、年間を通じたイチゴの栽培が可能になりました。



独自技術「ヒートクラスター®」で地中熱革命

これまでの技術では高額な導入コストが課題となっていました。独自の特許技術「ヒートクラスター®」によって熱交換効率を従来比3~5倍に高めたことで、導入時の設備投資費用を大幅に削減することが可能となりました。加えて、少ないエネルギーで空調管理が可能なためランニングコストも抑えることができ、また、化石燃料の消費削減やヒートアイランド対策にも効果的です。

人工透析クリニック (茨城県古河市)

地中熱全館空調・換気システム

天井に冷暖房輻射パネルを採用し、風を感じるこのない穏やかな環境を24時間維持し、グリーンで健康的な快適空間を実現しました。




顧客事業の課題解決に貢献

例えば農業では、地中熱を利用してハウス内の温度をコントロールすることにより農作物の生産量を上げることができます。加えてイノベックスでは従来より、農業資材の販売を通じて生産性の向上を支援しており、それら既存ビジネスと地中熱ビジネスとの連携でさらなる効率化が可能です。当社グループは顧客の課題を解決する付加価値の高いサービス提供を目指します。

● 既存事業と地中熱ビジネスのシナジーの例


既存事業



遮光網等の農業資材の販売
日照量等を調整することで農作物の発育をコントロール

新規事業

+



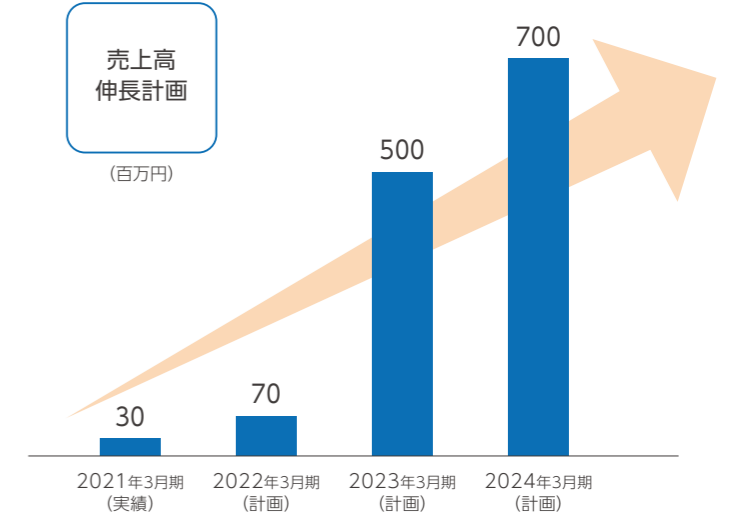
地中熱機器の設置
熱エネルギーを効率的に使用し、施設内の気温をコントロール

農業の生産性向上と環境負荷低減を両立

建設業認可の取得による売上拡大

現在イノベックスでは熱交換機の埋設工事に必要な建設業認可を保有していないため、設計や関連機器の販売のみを行っています。建設業認可を持つ企業との連携などにより、施工も含めた元請が可能なシステムインテグレーターとして事業の拡大を目指します。

● 環境関連ビジネス

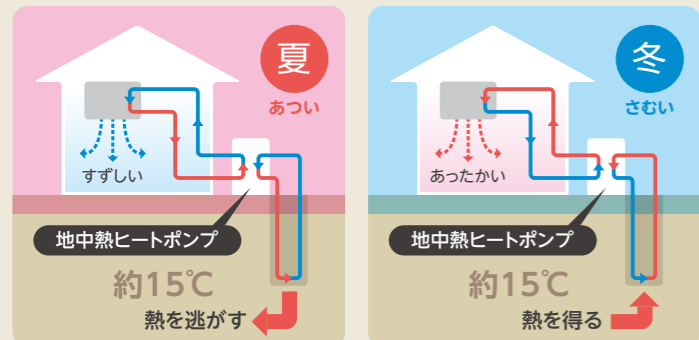


知っていますか? 地中熱

効率的な冷暖房で省エネを実現!

「地中熱」は、地表から深さ100m程度までの比較的浅い部分にある低温の熱エネルギーです。地中は年間を通して温度の変化が小さく、夏場は外気温度よりも地中温度が低く、冬場は外気温度よりも地中温度が温かく保たれます。この温度差を利用して効率的な冷暖房を行うため、省エネにつながります。

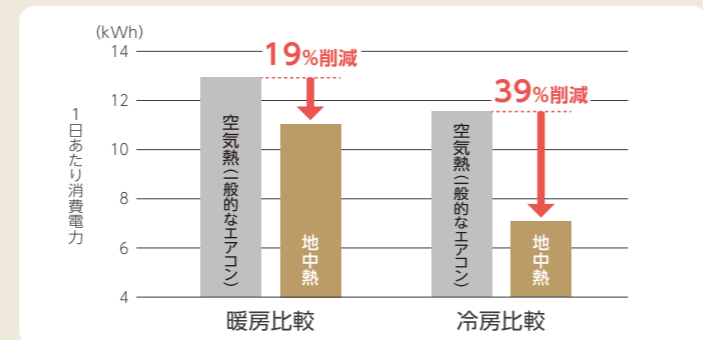
● 地中熱利用の仕組み



地中熱の強みは「安定性」!

再生可能エネルギーは電力供給の不安定さがデメリットの1つであり、太陽光であれば日照時間に、風力であれば風向や風の強さに発電量が左右されます。一方、地中熱は、あらゆる場所で利用でき、気候、昼夜を問わずに利用できる安定性の高いエネルギー源です。

● 一般的なエアコンと地中熱冷暖房の消費電力比較



出典:NPO法人地中熱利用促進協会

地中熱の利用件数は2013年の約2倍に増加!

近年、日本において急速に地中熱の利用が拡大しています。地中熱利用ヒートポンプシステムの累計設置件数は、2019年現在で2,993件*となり、2013年と比較して累積設置件数は約2倍に増加しています。

*環境省「地中熱利用状況調査」

● 「地中熱」と「地熱」は違います!

	熱源	熱源として利用できる場所	温度	使える場所	主な用途
地中熱	太陽によって温められた地面の熱	地表近く (地下100m程度の深さまで)	低温 (15°C程度)	ほとんどの場所で利用可能	冷暖房、融雪
地熱	マグマ由来の熱	地下深く (300~3,000m程度)	高温 (150~300°C程度)	火山の近くのみ	発電、温泉

官民挙げての地中熱の利用促進が進む!

安定的にエネルギーが確保できる地中熱の強みが評価され、2016年以降、多くの自治体が地中熱ポテンシャルマップを公開するなど、官民を挙げての利用促進が図られています。節電・省エネの有効な手段として、今後の普及が期待されます。

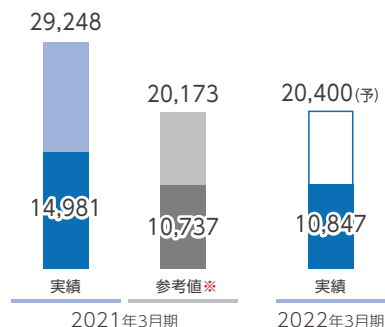
連結財務ハイライト

※2021年3月期 参考値は、2021年3月に譲渡したインテリア事業に係る損益計算書および(株)ウェーブロックインテリア株式譲渡による影響を除き、2021年3月期における(株)ウェーブロックインテリア連結の当期純利益の49%相当を持分法による投資利益として経常利益に計上した値

■ 第2四半期累計 ■ 通期

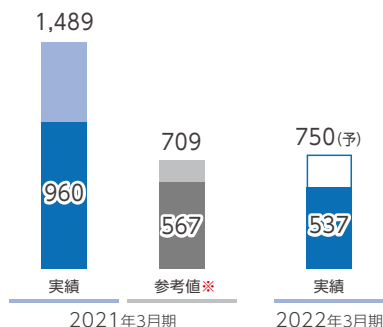
売上高

(単位:百万円)



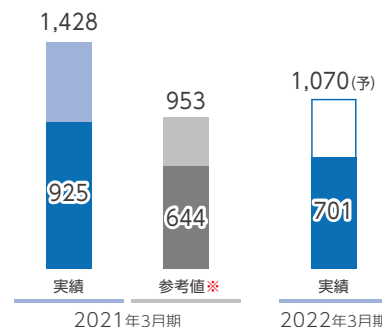
営業利益

(単位:百万円)



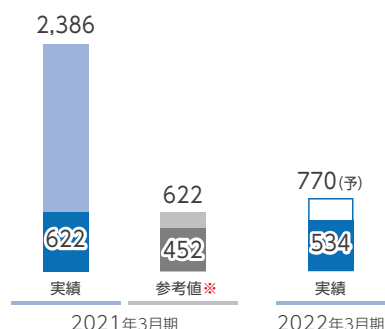
経常利益

(単位:百万円)



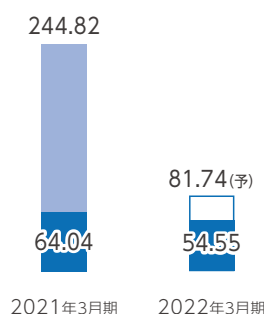
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



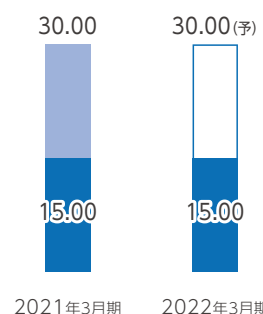
1株当たり当期純利益

(単位:円)



1株当たり配当金

(単位:円)



会社 / 投資家情報

会社概要

(2021年9月30日現在)

商号	ウェーブロックホールディングス株式会社 (Wavelock Holdings Co., Ltd.)
代表者	代表取締役兼執行役員社長 石原 智憲
設立	1964年(昭和39年)6月20日
事業内容	持株会社、グループ全体の戦略策定、 資源配分、経営管理
資本金	21億8,504万円
本社	〒104-0044 東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー13F
従業員数	(単独)47人 (連結)583人
グループ会社	連結子会社12社 / 非連結子会社1社 持分法適用関連会社2社
主要事業会社	株式会社イノベックス(マテリアルソリューション事業) 株式会社ウェーブロック・アドバンス・テクノロジー (アドバンステクノロジー事業)

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金	株主確定日 3月31日
中間配当金	株主確定日 9月30日
単元株式数	100株
公告方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行きます。なお、電子公告は当社のウェブサイトに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 https://www.wavelock-holdings.com/
お取扱窓口	お取引の証券会社等。特別口座管理の場合は、特別口座管理機関のお取扱店。
特別口座管理機関 お取扱店	みずほ証券およびみずほ信託銀行* フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行*およびみずほ銀行 (みずほ証券では取次のみとなります)

※トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。



ウェーブロックホールディングス株式会社
Wavelock Holdings Co., Ltd.

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取扱できませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、みずほ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(みずほ信託銀行)にお問合せください。なお、みずほ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。